

大宮駅周辺の歴史的な変遷

<平安時代～江戸時代>

- 大宮は、古くは武蔵一宮氷川神社の門前町、中山道の宿場町として栄えた。



写真：五海道其外延絵図_中山道_巻第1
(東京国立博物館蔵、Image: TNM Image Archives)



写真：氷川参道と旧中山道 (大宮国道事務所)



出典：国土交通省ホームページ (PLATEAU <https://www.mlit.go.jp/plateau/>)

< 明治～昭和 >

○ 明治18年 大宮駅開業後、多数の鉄道が乗り入れ その後、主に東口の都市化が進展

- 明治16年 上野・熊谷間で鉄道開業
- 明治18年 大宮駅開業（東北本線の分岐駅）
- 明治27年 車両修繕工場を上野から移転 鉄道のまち大宮として発展
- 昭和4年 東武野田線 開業
- 昭和6～11年 現国道17号 開通
- 昭和7年 京浜東北線 開業
- 昭和15年 川越線 開業

～東口の都市化が進展～

- 昭和37年 大一デパート 開業
- 昭和41年 中央デパート 開業
- 昭和43年 長崎屋 開業
- 昭和44年 西武百貨店 開業
- 昭和45年 大宮高島屋 開業

昭和38年 大宮駅東口駅前



写真：アーカイブズセンターギャラリー（さいたま市）

昭和45年 大宮高島屋



写真：アーカイブズセンターギャラリー（さいたま市）

昭和44年 大宮駅東口駅前 市庁舎屋上から

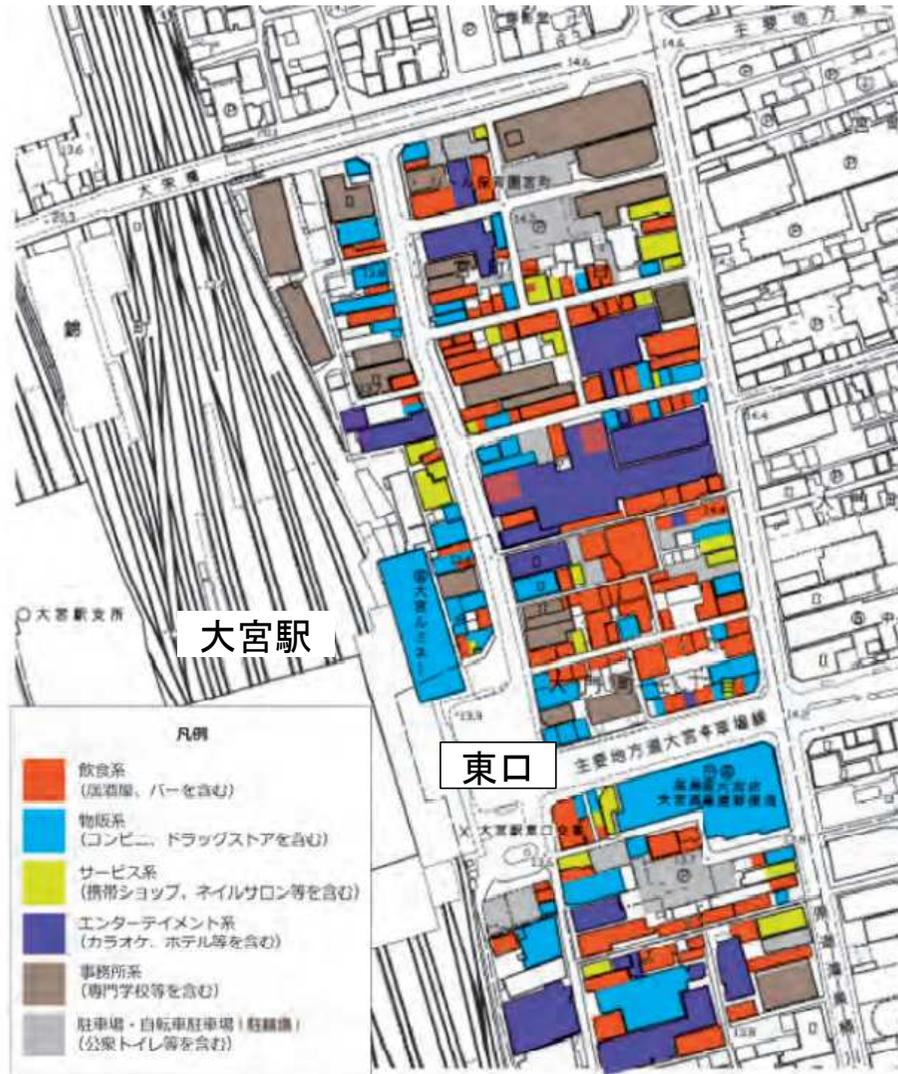


写真：アーカイブズセンターギャラリー（さいたま市）

大宮駅周辺の歴史的な変遷

<現在（東口）>

- 宿場町のDNAを引き継ぐ都市構造
- かつての短冊状の敷地の間の通路が路地空間となり、沿道における中小の商業が立地
- 多様な賑わいを育んできている



路面（建物1階）の土地利用の状況



大宮駅東口のまちなみ



大宮駅周辺の歴史的な変遷

<昭和（西口）>

- 大一デパート、中央デパート、長崎屋、西武百貨店、大宮高島屋など、大規模商業施設等の立地が進む東口に対して、西口では明治27年に開設された日本鉄道大宮工場以外に大きな施設等の立地は無し。

昭和34年 大宮駅西口駅前



昭和42年 大宮駅付近上空



昭和39年 大宮駅付近航空写真



昭和50年 大宮駅付近航空写真



大宮駅周辺の歴史的な変遷

< 昭和後期～現在（西口） >

- 昭和57年の新幹線開業にあわせて、西口の開発が急ピッチで進展
- 県内随一の商業エリア・オフィスエリアを擁する都市に発展

○昭和57年

- 東北新幹線（大宮～盛岡）開業
- 上越新幹線（大宮～新潟）開業



写真：アーカイブズセンター
ギャラリー（さいたま市）

- DOMショッピングセンター 開業
- 丸井大宮店 開業

○昭和60年

- 東北・上越新幹線（上野～大宮）開業
- 埼京線 開業

○昭和62年

- JACK大宮 開業
- そごう大宮店 開業

○昭和63年

- ソニックシティ 竣工
- パレスホテル大宮 開業

○平成3年

- 東北・上越新幹線（東京～上野）開業

○平成6年

- アルシェ 開業

○令和元年

- カンデオホテルズ大宮 開業

